

10/03/2020 共生社会システム学会

共生社会の実践的形成

～箕面船場まちづくり協議会の活動～

福留 和彦 (フクトメ カズヒコ)

大和大学 政治経済学部 経済経営学科

I . 基本情報：事の経緯と地区のあらまし

I. 基本情報：事の経緯と地区のあらまし

※報告要旨参照

大阪府箕面市船場地区の再開発のきっかけ

* 2015年度 大阪大学外国語キャンパスの移転合意

→ 2021年度キャンパス開き

* 2016年度 北大阪急行延伸・新駅設置工事開始

→ 2023年度完成・営業開始

新図書館（生涯学習センター併設）建設

* 市民図書館と大学図書館の融合（日本で2例目）

→ 2021年度営業開始

新市民ホール建設（大ホール、小ホール）

→ 2021年度営業開始

新市立病院建設（予定）

新小学校建設（予定）

- 行政
箱は作るが、ソフトやコンテンツは無し
指定管理者・PFI事業者へ丸投げ
- 大学
まちづくりへの無関心
- 企業
繊維組合：土地の高騰と売りぬき
ゼネコン：行政に振り回され…

I. 基本情報：事の経緯と地区のあらまし

■箕面市の地図



I. 基本情報：事の経緯と地区のあらまし

■ 小学校校区別世帯数 (2018年5月末)

* 萱野東小校区

今宮4丁目	622世帯
西宿3丁目	267世帯
船場東1(2)丁目	93世帯
船場東3丁目	461世帯

* 萱野小校区

萱野5丁目	179世帯
船場西1丁目	550世帯
船場西2丁目	1,264世帯
船場西3丁目	723世帯

* 中小校区

稲4丁目	64世帯
稲5丁目	575世帯
稲6丁目	660世帯

校区合計 5,458世帯 12,353人



I. 基本情報：事の経緯と地区のあらまし



I. 基本情報：事の経緯と地区のあらまし

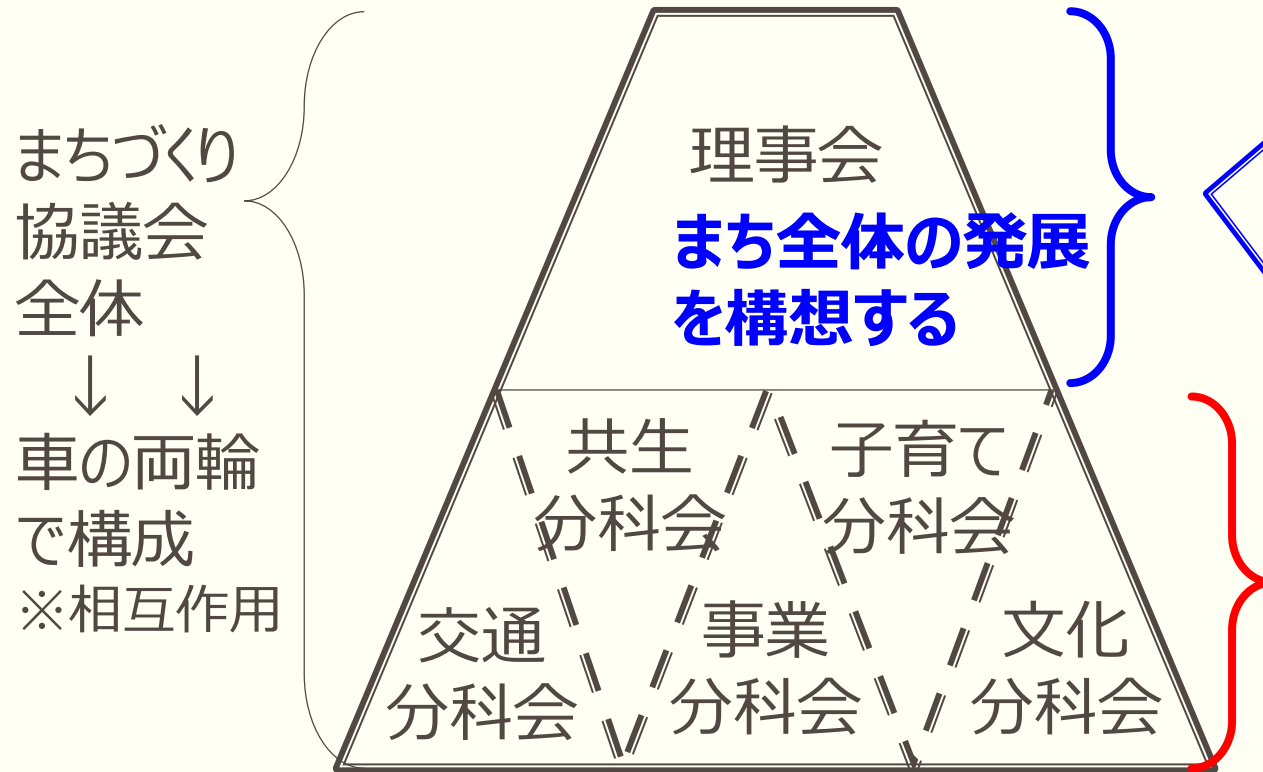


Ⅱ．箕面船場まちづくり協議会の活動と 思想・戦略

Ⅱ．箕面船場まちづくり協議会の活動と思想・戦略

準備会：2016年7月「箕面船場まちづくり研究会」発足

協議会：2018年7月「箕面船場まちづくり協議会」発足、活動開始



II. 箕面船場まちづくり協議会の活動と思想・戦略

■ COM ART HILLの理念（少なくとも20年以上前から）

都市コンセプト



COM ART HILL（コムアートヒル）大阪船場繊維卸商団地協同組合

●3C

都市としてのコンセプト、それは3つのCOM。
街のものがファッションの舞台となる。文化性と芸術性あふれる都市づくり。

COM ART HILLはこの大きなテーマに向かって名づけられました。



それは

COMMERCIAL ART

COMMUNICATION ART

COMMUNITY ART の3つの意味を含めています。

●5T

将来構想に向けての5つのテーマ。

COM ART HILLが先進の感性をもつファッション・ステージとなっていくためには、

都市としての個有の象徴が必要であり、さらに4つの機能を備えていかなければなりません。

それが、将来のCOM ART HILLを映し出す5つのテーマです。

象徴

COMの顔づくり

既存の国立民俗学博物館、大阪大学人間科学部、各種工房などの諸施設と一体化シンボリック施設の創造

創造

内に向けての力を養うための創造機能

新しいくらしのカタチを創造し、商品化に結びつける拠点。

- 創る場づくり
- 育てる場づくり
- 研究する場づくり

II. 箕面船場まちづくり協議会の活動と思想・戦略

■ COM ART HILLの理念

ちょっと驚き。
追求すべきテーマがわかっていて、
なぜ、船場東地区の衰退を招いたのか？



箕面船場まちづくり協議会も共有
する価値観

同じ轍を踏んではならない

連携

多様性を混合し、新しいシステムを構築する連携機能
生活に関わる多様な商品を品揃えしうる市場機能

- 集合させる場
- 売る場
- 商品企画開発機能

交流

人との出会いの場である交流機能
街そのものの魅力にひきつけられて、人々が広域に集まる。

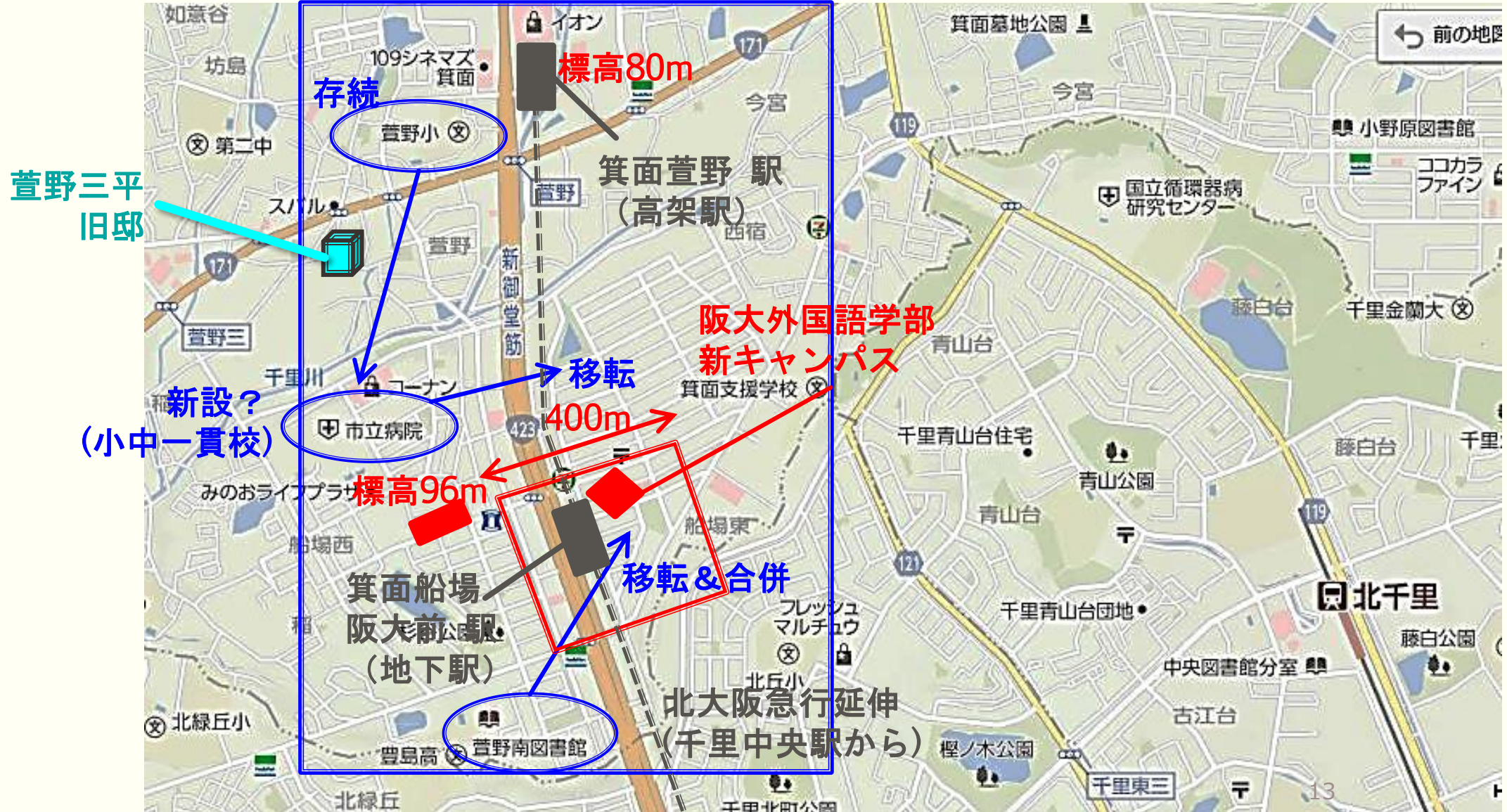
- 集まる場
- 遊ぶ場
- 廻遊する場

交感

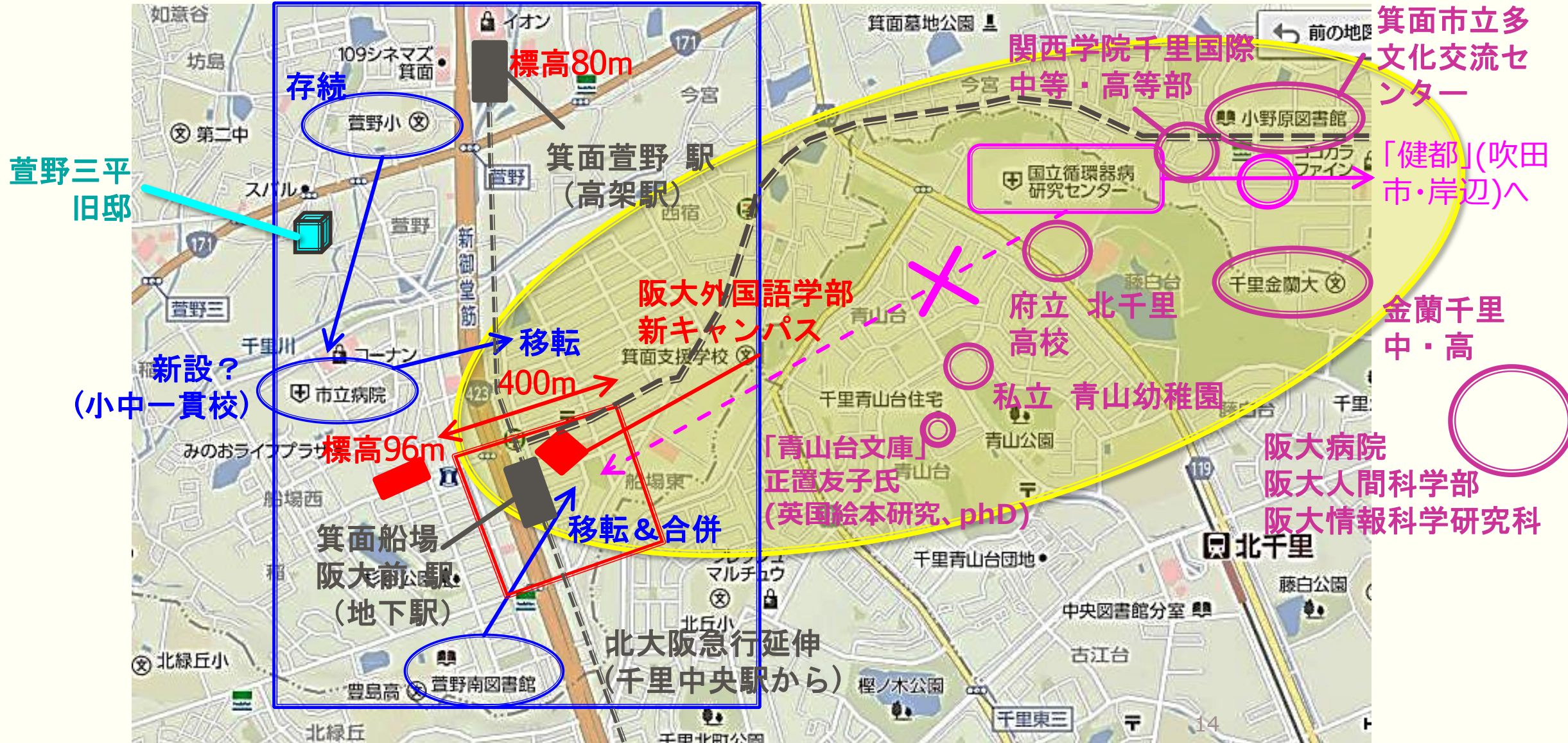
外に向けて発信する交感機能
くらしの動向をキャッチし、COMで創出各種商品の価値を消費者に
伝え、販売促進のための発信を行う。

- 情報集散機能
- マスメディアの発信機能
- 発表する場

Ⅱ．箕面船場まちづくり協議会の活動と思想・戦略

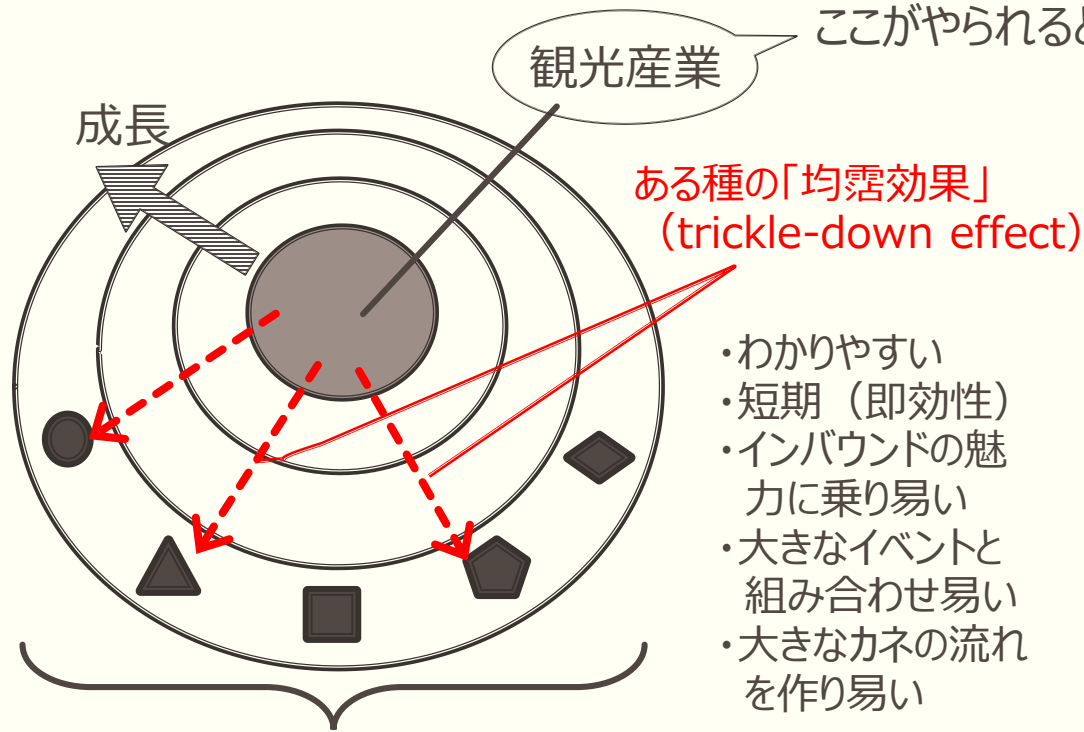


II. 箕面船場まちづくり協議会の活動と思想・戦略

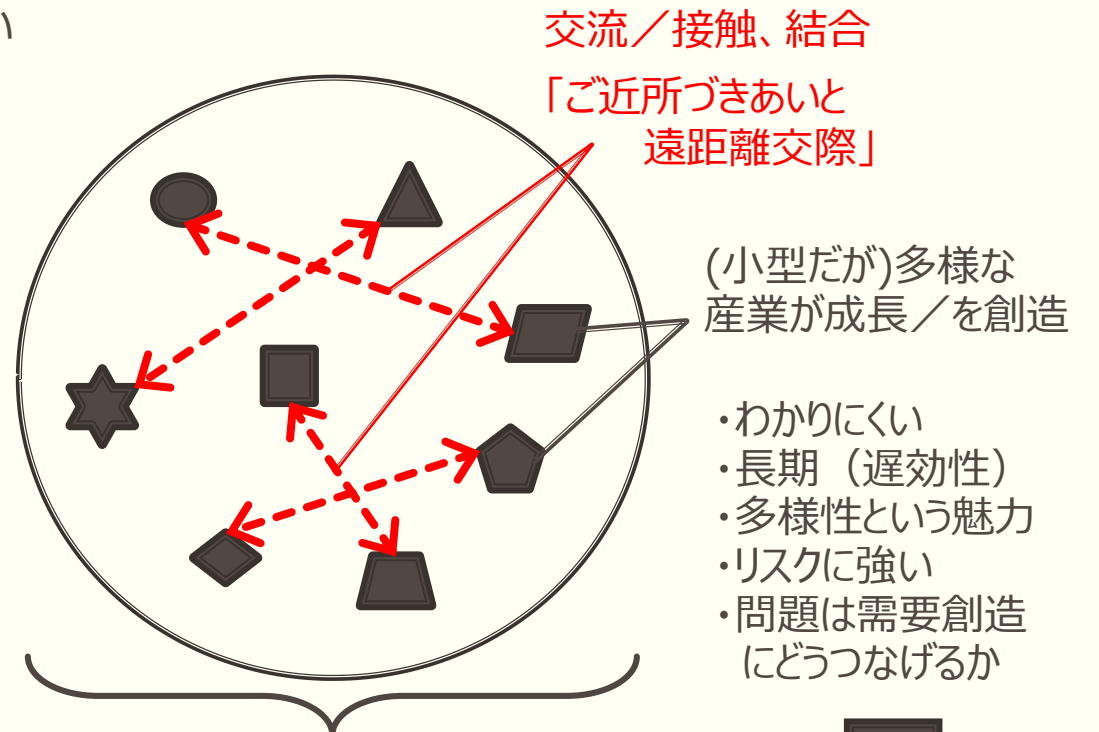


II. 箕面船場まちづくり協議会の活動と思想・戦略

モノカルチャー型 (leading sector, growth pole) vs. ダイバシティ型 (多様化・多極分散 ; 総合化)



既存産業、小規模事業 → 受身的



個々の主体は独立採算 → 主体的

- ・個人単位での工夫 ————— 交流の仕掛け
- ・集団としての工夫 (様々なコミュニケーション装置) 「
- ・社会保障制度 (ベーシック・インカム) ——— 挑戦し易い仕組み

II. 箕面船場まちづくり協議会の活動と思想・戦略

大阪大学新キャンパス

- ・図書館
- ・生涯学習センター

文化ホール 広場、デッキ 北大阪急行延伸 地域の資源

- ・各種学校
- ・商工業
- ・各種NPO
- ・歴史遺産
- ・個性ある人材
- ・人的ネットワーク
(自治会、子ども会、各種サークル)



- * 感性を刺激する、
創造性の豊かなまち
- * 異文化を背景もつ個人が交わり、
楽しいコミュニケーションのできるまち
- * 域内に流通する情報の高度化
(考える力を鍛える会話と批評)

脳・神経機能の再生

地方・地域の衰退の真因 = 脳・神経機能の劣化
船場地区 < 箕面 < 大阪 < 関西 < 日本

Ⅱ．箕面船場まちづくり協議会の活動と思想・戦略

この考え方は、協議会メンバー（ほか関係者）に完全に共有できていない

【障害】

1. 船場地区 < 箕面 < 大阪 < 関西 < 日本 → 「はあ？」
2. 理屈(理論)より実践
3. サークルの楽しさ、充実感（3の系：時間認識）
4. 各自の思惑（例：子育てタウン、防災）
5. 言葉の先行（例：戦力の逐次投入、選択と集中）



「意図して」まちづくりをデザインする作業と、「結果として」まちづくりにつながる個人的活動との区別ができていない

II. 箕面船場まちづくり協議会の活動と思想・戦略

まとめ：理念である「共生社会」を実現する手段としての「発展する地域」

■ 発展する地域を作る

⇔ 繊維団地の衰退、人口高齢化、コミュニティの維持困難

→ まち協の立ち位置、コンセプトなど対外的な説明力を担保

→ だから従来型自治会活動とは異なる（自治会matterを扱わないということではない）

■ 徹底した理論化の必要性

→ なぜ新しい資源がチャンスなのか

船場地区 < 箕面 < 大阪 < 関西 < 日本

■ 地域の低迷をマクロで捉える分析と、地域の活性化をミクロから組み立てる論理

→ 私の呼ぶ「仮想敵」の存在

関西経済同友会での仕事「関西活性化」（約17年）

Ⅲ. 補論：アフターコロナと地域の情報処理

Ⅲ. 補論：アフターコロナと地域の情報処理

菅内閣の発足 → デジタル庁の設置：特に行政のIT化・デジタル化の推進

小林慶一郎氏（東京財団、基本的対処方針等諮問委員会）

→ 低生産性の自営・中小事業者の駆逐。デジタル化・オンライン化に対応できない事業者・医院の駆逐

→ ICTを活用した「リアルタイム情報システム」によって、労働者の給与を迅速・的確に把握し、税収増につなげる

社会・経済のIT化は20年以上前から言われていたこと（ME化ならもっと前）

参考：関西経済連合会（関経連）からの下請け仕事：IT、eコマース

福留和彦[2001]「新しい時代の企業間取引を見据えて—柔軟オープンな取引関係の構築とeエコノミーの展開に向けての課題—」



AI（人工知能）の進歩もあって、人間行為の代替・駆逐の議論が喧しい

→ **情報処理に関する根本的な誤解がある**

Ⅲ. 補論：アフターコロナと地域の情報処理

- システム二元論の誤謬 (塩沢由典[1997]『複雑さの帰結』)

システム（経済、社会など）はどのように制御されているか？

誤解：制御域（コンピュータ、IT）と実物域に分けて、前者が後者を制御している

→ かつての社会主義計画経済



実物域の情報処理機能を見落としている

<例> トヨタのカンバンシステム（カンバンというカードによる部品管理）

出欠・遅刻管理「色紙（青、黄色、赤）」

Ⅲ. 補論：アフターコロナと地域の情報処理

■「まち」の情報処理

1. ルーティンにかかわること

- * 防災、交通、地域の安全、学校教育、生活情報
これらは情報の収集・蓄積・伝達が主たる目的となり、ICTが威力を持つ

2. 「まち」の創造にかかわること

- * アイデア、文化活動、新しい生活モデルなど
これらは「まち」それ自体の情報処理機能にかかわる

3. 「まち」の情報処理装置

- * 大阪大学（外国語学部）新キャンパス
- * 新図書館（生涯学習センター）と新市民ホール
- * 周辺に自生的に形成される様々な施設や諸活動



「まち」の実物域自体が持つ情報処理機能という視点の大切さ